

武教全書口訣

制法

三

武教全書口訣	
部門	一乙七
番號	六
冊數	二八



武教全書口訣

制法

金鼓旌旗ノ法ヲ定メ訓ヲ以テ之

此段ハ大鼓員金鼓次ノ如ク以テ之

フソカフ事ヲイヘリ

押太鼓ヲ以テ人教ヲ遣フ徳之吏

陣太鼓ノ事也押太鼓上ニハ軍勢ノ公

太鼓ヲ以テ押付ヘキ也

約束相傳ノ爲ニ用テ凡事





武教全書口訣

△制法



金鼓旌旗ノ法ヲ堅ク制スルハ要ナリ  
此段ハ大鼓貝金旗火ノ約ヲ以テ士卒  
ヲツカフ事ヲイヘリ  
○押太鼓ヲ以人数ヲ遣フ徳之変  
陣太鼓ノ事也押太鼓ト云ハ軍勢ヲハ  
太鼓ヲ以押行ヘキ也  
一 約束相圖ノ爲ニ用スル事



一 陽ホト千カノ如ハ言ヲ以テモ通スレモ  
大軍耳目ノ及サル如ハ事達シカタシ  
然ルニ相圖ノ約束ヲ定メ置キテ太鼓  
ヲ以テスル如ハ四方ヘ速カニ通達メ  
ト、コヲルヲ十ク坐作進退節ニ當リ  
テ少モ遲速ノ十キ物ナリ  
一大勢ヲ用ル小勢ヲ用ルカ如クナラ  
シムル也

先難大勢ハ下知行届難ク備乱混雜ノワカ

一 大難キ物也然ルニ太鼓ヲ用ル如ハ  
諸勢一致メ進退分合小勢ヲ用ル如ク  
自由ニワカハル也  
一人ニ勇怯十カラシムル事  
勇怯ハイサミヲソル戦子テハ勇氣十  
ル者ハ先ヘ進ミ虫臆病ナル者ハ跡ヘ  
サカリテ備一致シカタシ然ルニ約束  
ヲ定メ太鼓ヲ以人数ヲ進退スル氏ハ  
勇者モ独進ムヲ十ラス怯者モ独退ク



不能也

一 威ヲ示ス事

是ハ理ヲ云歎ニハ威ヲ示シ味方ハ  
下知ヲ通ス太鼓ヲ用ユレハ味方ニハ  
勢ヒ出来テ威ヲマス物也歎ハ是ニ氣

人ヲ屈シ臆氣ヲ生ス

一 氣ヲ棄歎ヲ疑カハシムル事

太鼓ヲ用ユレハ歎是ニ氣ヲ棄シ今ノ  
太鼓ハイカナル相圖カ尤ヨリ来ルカ

石ヨリカ、ルカト大キニ疑フモノ也

太鼓ハカリニカキラス壺ハ人ノ耳ヲ驚  
カシ氣ヲ一ツニ致ス徳アリ

太鼓ニハカキラス捻テ声ノアル物ヲ  
用ル片ハ歎ハ是ヲ聞テヲト口キ疑フ  
生シ味方ハ是ヲ聞テ其圖ヲ心得ルユ  
余諸人心ニ致スルモノ也

○押太鼓亦様之事

一 表九字文ヲ臨兵闘者皆陣烈在前



太押太鼓ニ序破急ノ三段ノ打様了リ是  
ヲ九字ニ表スルナリ臨兵闘者皆陣烈  
在前是則九字ノ文ナリ是ヲ和訓ニテ  
ハ兵ニ臨テ闘フ者ハ皆陣烈ノス、ム  
ニアリトヨム此文ニ因テ太鼓ノ打様  
ヲ定メタルニハアラス自然ト撥数九  
字ノ数ニ叶ヒテ且此文兵家ニ宜キ文  
ナナルニハ是ヲ取用ヒテ表相トシタル  
モノナリ

序二破三急四

是打様也序ハ撥カスニツハツハケテ  
破ハ三ツ急ハ四ツニ続ケテ打切ル也  
是ヲ以諸勢ヲ押也三段ノ打様ニテ諸  
兵足並ノ緩急アルナリ歌合ノイマタ  
遠キ吹序ヲ打足ヲユフニフンテ進ム  
也アルハヒ近クナリテハ破ヲ打足並少  
シイメタ也ステニハタヘヲ合ス第二  
至力急ヲ打其吹急速ニ進テ歌ヲ打也



如此ノ敗ハ劣スルヲ十クメ諸軍次第  
ニ英氣ヲニシ勢強ク十ルモノ也  
打留レハト、マル打始レハ又エク  
何ソ疑シキヲ十トアル敗ハ軍ヲト、  
メテ其外ヲサクリ正メ進ム十リ其止  
レト云敗ハ太鼓ヲホトムル也又進ム  
ト云敗ハ太鼓ヲ打出ス也他ノ流ニハ  
ヨセル太鼓十ト、云テ軍ヲ止ル相圖  
ニハ撓教ヲ多ク打ト云傳アリ然レハ

一 教ヲ打敗ハ用テカユルアリテ約束  
相違アルモノ故當流ニハ本文ノ通折  
ト止ルトヲ以テ行止ハ相圖ニ用ル也  
一 備ヲ抗敷折立結フ解款城へ取寄ル又ハ  
卷ホクシ懸ル敗守リ返ス氏皆太鼓ヲ用  
テ德多シ夜軍ノ氏尚太鼓アルヘシ  
文面ノ如シ夜中ハ旌旗用ヒラレサル  
ユヘ一入太鼓ノ類声アルモノヲ用ル



○貝之事

一 貝ハ口ヲ切ト吹ル、モノナレハ陽也  
太鼓ハ木ヲクリ皮ヲハリ十トスレハ  
陰ナリ今コ、ニ陰ヲ先ニメ陽ヲ後ニ  
出スハ其法ヲ知リテモ腹合或勇怯ニ  
前ヨリテ急ナル吹難シ太鼓ハ其相圖  
ヲ知ル吹ハ誰ニテモ打ル、物上ヘ太  
鼓ヲ先ニメ貝ヲ次ニ記セリ  
一 迎ル貝送ル貝之度

一 迎ル貝ハ出陣ノ吹軍神ヲ勧請スル爲  
ニ吹貝ヲ云送ル貝ハ軍ニ打勝テ勝因  
ヲ取行ヒ軍神ヲ送りカヘス為ニ吹貝  
ヲ云也  
一 迎ル貝ハ始ヲホソク終ヲフトク吹  
ユリナシニ吹ナリ是ハ味方ニトル始  
ヲホソク次第ニ勢強クナルノ道理也  
一 至終長久ノ意也  
一 送ル貝ハ始ヲフトク終ヲホソク吹ヘシ



是ハイヨク終ヲ慎ムノ意也又是ヲハ  
歎ニトルユヘニ終ヲホソク吹也

一 一二三之貝之変

一番貝ヲ吹テ諸勢起飯ヲカシキニ番  
ニ支度ヲ調テ脩ノ場ヘ出テ三番貝ニ  
一同ニ出陣ヲスルナリ

一 篇貝之事

カヤリヲ焼リヲ詞ヲ以下知ヲスレハ  
遲速アリテ不宜ユヘ兼テ約ヲ定メ置

テ本陣ヨリ貝ヲ立ル是ヲ聞テ諸陣一  
同ニ篇ヲ焼也是ヲカヤリ貝ト云ハ

一 貝ノ相圖其本ヲ知事

前ニイヘル如ク貝ハ吹ニクキモノユ  
ヘ常ノ相圖ニハ不用之太鼓ハ山ヲ隔  
テハ相達シ難シ貝ハ能山ヲ越テ遠ク  
聞ユル物也山谷ノ間ノ相圖ニハ貝ヲ  
用ル是其本也

一 貝太鼓声ノ遠近度量之事



度量ハツモリノ丁ニ器氏ニ順風十  
レハ十町四方ハ達スル也逆風十レハ  
七八町ハ聞ユルナリ是遠近ノ凡ノツ  
モリ也此順逆ノ度量ヲ考テ声ノ不及  
凡ヘハ貝太鼓ヲ置テ滞リナク通達ス  
ル如クスヘキ也

陣鐘之変

世ニ陣鐘ハ其凡ノ寺社ノ鐘ヲ用ルト  
云説ナリ是乱暴ナリ軍中ニハ専乱暴

一 陣ヲ禁スルナレハ當流ニハ不取之口

ノ渡リ尺ハ力ナシ鐘ヲ用意シ持也

一 一二三之鐘之事ナレハ

貝ト同意ナリ

一 觸鐘之変

是ハ渡リ一尺ハカリノトラヲ用ユタ

トヘハ頭奉行ナト本陣ヘ呼集ルナ

ルニ出仕ノナラ觸狀ナト出シテハ

ニナキナレ兼テ約ヲ定メ置右ノ鐘ヲ



カタカ也陣屋ノマワリヲ打テ廻ラシ  
ム此トヲヲ聞テ旗本へ集ル也是ヲ觸  
鐘ト云

一 討限之鐘之変

士卒耽ヲ知サレハ遅速ノ考ナラス万  
事イソカハシキ丁多シ故ニ耽計ヲ以  
耽ヲ考鐘ヲツキテ諸午へ耽ヲ知シム  
ハ夜中尚以可令知之変也

一 相圖之鐘之事

貝太鼓ト同ク鐘ヲ以テモ紛束ヲナシ  
相圖ヲ致ス也  
一 金鼓差別之変

太鼓ハ勢ヲ増物エへ進ムニ用エ金ハ  
退ニ用ル是通法也爰ニ差別ト云ハ歌  
味方紛レ又如クスルヲ云タトへハ歌  
ニ太鼓ヲ用ルニ味方ニモ太鼓ヲ用テ  
ハ後陣ヨリ聞マカフアリテ不宜ユ  
ハハニ味方ニハ金ヲ用ル如クセヨト也



右何レモ声ヲ以テ人数ヲ以カヲ徳也然  
ハ太鼓貝鐘ハカリニカキラス万聲了ル  
物ヲ以約束ヲ通スルコトハリハ一理十  
リト知ヘシ

人ノカケ引ヲナシ変ヲ通スルニ無言  
ニソ前後左右其法ニ叶変ニ應スル如  
金スル徳アリ然レハ本文ノ三器ニカキ  
テ何レハ器ニテモ声ノ通スル物ヲ  
用ル道理同シ也免角致シ安キ

○ 旌旗之事

大ハタ小ハタトヨ今ニ幅ニテスルヲ  
大ハタトイヒ一罽ニスルヲ小旌ト云  
是ヲ以相圖ヲ通スルヲ云  
一 相圖ノ旗之変 同守旌證拠ノ旌之事  
相圖ノ旗ハ高陽ノ地立置約束ヲ定是  
ヲ以相圖ヲナスヲ云諸此旌ヲ守リ居  
テ此旌ノ指揮ニ從テ進退分合ヲナス



ユヘニ是ヲ又守旌ト云ナリ約束ニ從  
テタトヘハ尤ヘ招ケハ尤ヘ力、リ右  
ヲ麾ケハ右ヲ討キ此旌ヲ證據ニメ備  
ヲナスユヘニ是ヲ證據ノ旌ト云也  
世上ニ旌ノ只ヲ三本ニ分ケ或五色十  
トニメ用ル説アル氏戦場ニテ相圖ノ  
只多キハ迷アリテ不宜ユヘニ當流ニ  
ハ右ノ通一本ヲ以三只ヲ兼人数自由  
ニワカフ如クスル也

一 見セ旌之事

一 山林險阻ノ地ニ因テ旌ハカリヲ立置  
テ人数ノ竈リタル如クノ款ノ氣ヲ棄  
ニ疑ハシムル手段ニ用ルヲ云也

一 圓居馬印二本之德之事

一 備ニハニトヒト馬印ト二本持シム  
トヒハ其一千ノ備ヲ司リテ士卒ノ進  
退ヲ主トスニトヒトハ人数ヲ其知ニ  
マツトノ居ノ名也然レハニトヒト動力サ



レハ其備勤サル也馬印ハ大將ノ進退  
ヲ主トス馬印トハ大將ノ馬ニ從フノ  
名ナリ大將ニ添テ勤ク也夕トハハ士  
大將本陣ナトハ出ル氏ハ馬印付テ行  
ナリ是ヲ見テ大將ノ在ルヲ知也ト  
行サレハ其備ハニトヒニ付テ居其  
ルヲ勤カス

一 對差物之交付リ夕シ之事

一 對差物ト云ハ一手々々ノ只ヲ分タシカ

為ニ一手々々ヲ對ニスルヲ云也然レハ

小旗四方四半シ十ハ吹貫吹流シ母衣金

銀ノ上ツル尾花ハクニコクニ赤熊母衣

張釣鏡何レモ對ニイタシテ紛ナカラシ

ムル是ヲ對差物ト云夕シハ面々ノ思ヨ

リ次第家ノ紋罽簾酒林又諸神諸仏ノ御

名其外何ニテモ其組其内ニテ誰其ト見

分ラルヘキ物ヲ可用

一 旌ヲ備ニ用ル徳ノ事



是ハ相圖ニ用ル旌ニテハ十シ持小旌  
ノ丁也五十騎一隊ノ備二十本宛持シ  
ムル十リ其德ハ旌ハ勢ヒテ添ルモノ  
ニテ其備ノ位大ニ増シ士卒英氣ヲ増  
モノ也サテ高ク見ユルユヘ遠方ヨリ  
来ル味方ヲ早ク知ナリ  
一持小旌備ウシ口之変  
持小旌ハ備ノウシ口ヘ備ヘキナリ上  
代ハ勇士タルモノ備ノ先ヲ持テ押タ

リ中古ヨリハ匹夫ニ持シム然ルニ先  
ニ持シムルハ物前ニテハ匹夫大キ  
ニ驟キテ或ハ旌ヲ捨テ走りナトスル  
丁アルユヘニ後ニ立ルカ宜キ也

○相印之変

一笠印之事 曹ノ後ニ付ルヲ笠印ト云尤  
足輕輕兵ノ類ハ曹ヲ對ノ笠ニ致シ金銀  
ノ飾家ノ紋ヲ虫スモ笠印トイフナリ  
一袖印之事 是ハ鎧ノ袖ニ付ルナリ



其心得アリ

右ニ付ヘシ跡ノ味方是ヲ見テ某ト云

ヲ知爲也

笠印袖印ハカマリニ行夜込夜働何レモ

コレヲ用ルナリ

カマリ或ハ夜中十トハ差物ハ物ニサ

サハリテ不冝ユヘニ別テ是ヲ用ヒタ

ルカヨキ也何レモ布ヲ四角ニメ下方

ハ鯨ノヒレノシヒヲヌヒクハミニソ

緒ヲ付テ用ルナリ

一 鎗印同三ツ巻曹ノ前立之夏

鎗印ハ一國ノ相印ニ用ユ持鎗ニ何ニ

テモ對ニノ印ヲ付ルナリ三ツ巻ハ鎗

ノシホ首ヲ金銀ヲ以テ同ニ様ニ巻テ

印トス必三処巻ニハカキラス四巻ニ

テモ五巻ニテモニキテ一午々々ノ印

トスル也曹ノ前立物是又一様ニソ一

合組ノ印ニ用ル也



一合札剗符合詞之変

合札ハ木札ニ焼印ヲ押タル札也ワリ  
符ハ剗印ノ類也蛤貝或ハ竹木ヲ短ク  
切テニツニワリ相紋ヲメ用ユ片方ハ  
侵ルニ留置片方ヲハ外へ出ル人ニ渡  
ス也合詞ハ討カト問ヘハ勝ト答ル類  
ナリ是ハ夜々ニ改ルモノ也是何レモ  
款味方ヲ分間恐ヲ正ス爲ナリタトヘ  
ハ城中或ハ陣屋ヨリ外へ人ヲ出ス氏

一合札剗符合詞之変

○火歸ル氏右ノ合札ヲ出サセ剗符ヲ合セ

見相詞ヲ問カケ答相違ナキ氏ハ内ニ  
入レ違ヘハトラヘテ詮美スルナリ詞  
ヲ添ル丁ハ万一敵右ノ者ヲ討テ合札  
ワリフヲ棄テ味方ニ紛レ来ル丁アル  
ユハ是ヲ正シ究ル爲ナリ

一才配團扇十扇子之変

采幣ハ士卒ヲ指揮スル也諸大將ノ人



教ヲ下知スル人柄持之ナリ大將ハ人  
團扇ハウキハ也軍兵ヲツカフ器也故  
ニ軍配トイフ是ハ本大將ノ持ルノウ  
ツハ也將々ニハ持テユルナス或ハ  
夏ハ團扇冬ハ才配ヲ持トイフ主將  
人好ニ從フヘシ扇子ハ軍扇也諸大  
將ヨリ平士ニテ持ナリナリハ  
○火之事  
一 相圖之火之事同入不入火之是

夜中ハ火ヲ以相圖ヲナシ諸事ヲ相通  
達スルナリ入不入火ハ夜討ノ入タル  
トキ本陣ヘ告ル相圖也夜守ノ卷ニク  
ハシ  
一 飛肺篝之事

是他ヘ攻入テ自国ヘ款ノ要ヲ通スル  
氏或ハ界城ヨリ本城ヘ要ヲ達スル或  
ハ大河ナリ隔タル氏ノ類ニ用ユ兼テ  
約ヲナシ置山ノ峯々ニ篝ヲ了ケテ段



段ニ焼<sup>ツ</sup>ケテ一敗ノ間ニ達スルヲ

云次飛肺ノ意ナリ

一 兩篇同焼様之事別ニ出之

本力、リ捨カ、リノニ<sup>ツ</sup>也營法夜守

十トノ卷ニ委ク出セリ

一 夜軍ニ火ヲ用ユル事同夜旌之事

火ハ勢ヲ増モノユヘ夜軍ニハ火ヲ用

テ德アルナリ夜戦ノ卷ヲ考合スヘシ

夜旌ハ夜ハ旌ノ相圖ハ用ヒラレカハ

テヘニ旌ノ力ハリニ太挑灯ヲ用ヒテ

進退万変ノ相圖ヲナスヲ云ハズ

一 相圖ノ狼煙同狼煙アル様之更ハ

登ノ相圖ニ用ル遠方ヘ事ヲ通スル爲

ナリ飛肺カ、リト同意ナリアケ様ハ

穴ヲホリ中ヘ青松葉ヲツミ上ニ狼ノ

尿ヲ置火カケルナリサスレハイカホ

ト風烈クテモ煙眼ヘ千ヲス一筋ニ丸

ク上エスクニ立モノナリ此煙ヲ以テ



相圖ヲナスヲノ口シト云

○関ノ声ヲ用ル徳ノ事

一 城ヲ責邑ヲ破ル收其氣力ヲ一二十サシ  
ムルニ用ル事

邑ハ都會ノ地繁昌ノ処也城邑ヲ責破  
ル氏関ヲアケテ責ル氏ハ大勢ノ氣力  
一致シテ英氣サカシニナル也カト  
勢ト下離レニテハ戦ハ成難シ  
夕トハ公無言ニテハ十人ヲテアカラ

一 前又石ヲ九人声ヲ合テ上ル氏ハ石ア力

ル力如シ畢竟心ノ一致スルトセサル  
トナリ思タナレハ一人ノ力ナリ  
声ヲ合スレハ九人ノ力トナ  
ル道理ナリ

一 進ミ難ク破難キ收用ル事

敵ノ備全キ收ハ進ミ難ク責破リニク  
シ其收関ヲアクレハ敵ハ虚シ味方ハ  
勢ヒソヒテ進ム也是則総勢一致シテ



一度ニ進ムユヘナリ声ヲ合セサレハ  
思ヒ々々ニナル故ニ進ミ難キ也

一 西ヲ討ントテハ東ニ関ヲアケ東ヲ討ン  
トテハ西ニ関ヲアクル事

西ニテモ東ニテモ何方ニテモ討ヘキ  
見込アル氏ハ先其裏ニ向テ関ヲアク  
レハ敵ハ実ニ心得テ其方ヲ防ント人  
数集リテ其跡虚トナル也其不意ヲ討  
ニ利アル也

一 前箭危キ恥ハニヨ関ヲ癸スル事

前箭ハ先手也先手ノ戦危クミヘ旌色  
乱テ見ユル氏二ノ手ヨリ関ヲアケテ  
進ム氏ハ先手ニ勢ヒ出テ旌色ナラ  
ルモノナリ

一 二ヨリ進ントスルニ猶危キ氏ハ関ハカ  
リヲ用ル事

先手ノ戦危ク見ル故二ノ手進テ敵ヲ  
打立ントスルニ敵ニ其備アリテカ、



リ難キ氏因ハカリヲアケル也是敵ヲ  
才ヒヤ力シ其虚ヲ討ノ意ナリ味方ニ

ハ勢付英氣ヲ生スル物也

一夜軍ノ敗ハ中軍ニ因テ発スル事

一夜軍迎備枳軍ニ因テ用ル事

右ニケ条公夜戦ノ篇ニ委ク記ス

前篇ハ共ニ其ノ事ニ因テ發スル事

一前篇ハ共ニ其ノ事ニ因テ發スル事







